

通 告 順 序 第 5 号

5 番 山内 豪 議員

一 般 質 問 答 弁 書

一 般 質 問 答 弁 書

作 成 課	産業振興課	5 番	山内 豪 議員
質問事項	農業の振興について		
内 容	町の基幹産業である農業は米価の大幅な下落により農家の生産意欲も低下し経営的にも厳しい状況になっています。 令和3年度におきましては会津美里町稲作経営継続支援金制度を創設していただきましたが生産意欲の向上までには至っていないと考えます。今こそ稲作プラス園芸作物等の複合経営による農家経営の安定を積極的に推進すべきであると考えます。これらの状況を踏まえて次の2点について町長の見解を伺います。 ① 令和4年度施政方針におきまして農業生産力強化支援事業により意欲のある農業者をサポートとしております。この趣旨は理解できますが町の農業振興のためには意欲のある農業者だけではなく多くの農業者が意欲のもてる施策、やる気を起こすような町の施策やサポートが大切であると考えますが見解をお伺います。 ② 本町の地域資源の一つである「身知らず柿」は栽培歴史もあり盛んに生産されてきたところです。ところが近年高齢化等に伴い栽培されなくなった柿畑が見受けられ荒れ始めており隣地農地に悪影響を及ぼしているところです。 町としてはこの現状、原因をどのように把握されているのか伺います。また現在は渋抜きによる出荷が大部分を占めていると思いますがより高付加価値化を図るために関係機関と提携し身知柿の二次産品化を推進し販売につなげることにより産地形成を図り生産意欲の向上と休耕している柿畑の問題解決に結びつくものと考えますが見解を伺います。		
	5 番 山内議員の一般質問にお答えいたします。 はじめに、「農業の振興」についてであります、 1 点目の「多くの農業者がやる気を起こすような農業施策やサポート」につきましては、 米価の回復が見通せない中で、		

答 弁 要 旨	次期作の生産力を維持するためには、 農業者のやる気を見出す施策が 重要になってくるものと認識しております。 そのため、高収益作物の導入や 非主食用米への作付け転換を推進することで、 農業経営の安定を図り 意欲的に営農を継続できるよう、 サポートしてまいります。 2点目の「柿畑の荒廃の状況と原因」につきましては、 農家の高齢化や離農が進んだことにより、 耕作放棄地が増え、 近年では、栽培が盛んな地区で 落葉病などの拡大が懸念されているところであります。 また、みしらず柿は他の地域にはない 特色ある作物であるため、 今後も関係機関と連携し付加価値向上や販路拡大に取り組み、 ブランド力を強化することで、 産地の維持及び耕作放棄地の解消を 図ってまいりたいと考えております。
----------------------------	---

一 般 質 問 答 弁 書

作 成 課	政策財政課	5 番	山内 豪 議員
質問事項	2. 新鶴スマートインターの利活用について		
内 容	令和4年度施政方針において新鶴スマートインターチェンジについては今後も地区協議会を中心に利用促進に努めるとされておりますが本町とりまして重要なインフラでありますので今後より一層利活用を図り町発展に活かすべきであると考え次の2点について町長の見解を伺います。 ① 本町には「道の駅」が整備されておらず町内で生産された産品は個々に販売されております。他の先進事例を見ても地元産品を道の駅においてPR販売することは六次産業化及び観光誘客にとって大きな役割を果たすものと考えます。よって新鶴スマートインターチェンジの近辺に道の駅を整備することにより利活用の促進につながるものと考えますが見解を伺います。		
答 弁 要 旨	次の、「新鶴スマートインターの利活用について」 であります、 1点目の「新鶴スマートインターチェンジ周辺の整備」 につきましては、 平成28年度から平成30年度にかけて、 道の駅の整備について 検討を行いましたが、 配置間隔の目安が 10キロメートルから 20キロメートルであることから 近隣町村の「道の駅」の 配置状況や		

新鶴地域での懇談会での ご意見等も踏まえて、

整備については難しいものと

判断したところであります。

新鶴スマートインターチェンジは、

北の玄関口として

町の重要な施設と認識しておりますので、

利活用につきましては、

今後 研究してまいりたいと考えております。

一 般 質 問 答 弁 書

作 成 課	建設水道課	5 番	山内 豪 議員
質問事項	2. 新鶴スマートインターの利活用について		
内 容	②新鶴スマートインターチェンジに接続している町道３０３５５号線につきましては町道３０２０３号線交差点から町道３０３５４号線交差点までの間が幅員が狭く特に冬期においては積雪等により交互通行が困難な時も見受けられます。県道を迂回する方法もありますがスマートインターチェンジの利用者の動線からすれば町道３０３５５号線の改良は必要であると考えます。またこの路線は高田工業団地を結ぶ最短の路線であることから早急な整備が必要であると思いますが見解を伺います。		
答 弁 要 旨	2点目の「町道３０３５５号線の改良整備」 につきましては、 冬期間、当該路線において、 積雪により一時的に幅員が狭く交互通行ができなくなること、 西側からの風による吹き溜まりが発生していることも 認識しているところであります。 今後、町道３０３５５号線においては、 高速道路へのアクセス道路として、 利便性を図ることは基より、 冬期間においても安全に通行できるよう 国の社会資本整備総合交付金事業を活用し、		

	来年度以降整備計画を策定し、 実施する予定であります。
--	--------------------------------